

				評価		
部署	具体的目標	具体的方策	個別	総合	次年度への主な課題と目標	
1 事務局	来客・生徒への迅速な対応、経費の節減に努める。 また不審者対策を行う	来客・生徒の対応を親切的確に行う	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 来客、生徒への対応 従来通り親切かつ丁寧でわかりやすい説明など対応を継続していく。 節水、節電について 電気料金的大幅増加が想定される中、経費削減委員会(案)の立ち上げ、また職員連絡網を活用し節約意識を高めていく。 関係機関への提出文書・回答文書 従来通り、正確性の向上と期日厳守を図る。 不審者の侵入、積極的な挨拶と声かけ 接客技能の向上と防犯対策については教職員と警備担当者との連絡を密に行い継続強化を図っていく。 	
		節水・節電をこたある毎に職員・生徒に呼びかける	B			
		学校への不審者の侵入を教員と連携し、その防止に努める	B			
		関係機関への提出文書・回答文書について正確性の向上と期日厳守を図る	B			
		積極的な挨拶と声かけを徹底し、接客技能の向上と防犯対策を図る	A			
2 広報部	関係機関と連携し、広報活動を活発に行い、本学園の教育方針の広報・啓蒙に努め、生徒募集に寄与する。	小学校・中学校・塾・予備校と頻りに連絡をとり本校教育について啓蒙を深めた。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 県外、海外からの入学者を増加させるため、校内および校外での学校説明会・相談会の開催回数や質を改善する。 本校の教育活動の成果をより効果的に広報するため、ホームページや出版物の質を高める 	
		本校教育を浸透させるために、学園祭・オープンキャンパス・体育祭等学校行事に積極的に係わり、学園来訪者等に広報・啓蒙に努める。	B			
		本学園HPを充実させ、学校案内の作成、PTA新聞を作成し、広報活動に努める。	A			
		校内および校外での入試説明会・相談会の開催回数や質を改善する	B			
		本校の教育活動の成果をより効果的に広報するため、ホームページや出版物の質を高める	A			
3 異文化交流部	情報を全生徒保護者に伝達し、全生徒に異文化交流の機会を提供できるようにする。	異文化交流プログラムの情報が個々の生徒や家庭に正確かつ効果的に提供した	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒に異文化体験の機会を提供できるよう、広報活動や説明会の質を高める。 学年主任やクラス担任との連携・連絡をしっかりと構築する。 コロナウイルス、パンデミックの中、今年同様来年も国際または海外との交流、派遣および受け入れは困難に思われる。その中で何らかの形で交流(オンライン交流など)をもちたい。 	
		プログラムに参加する生徒に事前研修を徹底し、安全性を確保、かつ習得効果の大きなプログラムを提供した	B			
		プログラムから帰国した生徒への確かな事後報告の機会を提供し、適切な進路指導を行った	B			
		全校生徒に異文化体験の機会を提供できるよう、広報活動や説明会の質を高める	B			
		学年主任やクラス担任との連携・連絡をしっかりと構築する	B			
4 学寮	寮則にのっとって規律正しい寮生活を送り、連帯感を高めていけるよう指導する	・入寮生への寮則の徹底を図り、規律性を保った	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 舎監同士で連絡をこまめにとり、寮生の現状把握や寮運営の共通理解を持つことができた。 コロナ禍で毎年寮生中心に企画運営する行事が昨年度、今年度と開催できなかったため、「自発的な取り組み」に関してはなかなか促す機会が無かった。 	
		・寮内の生活、環境美化やプログラム運営で、寮生の自発的な取り組みを促した	B			
		・寮生や保護者とのコミュニケーションを徹底し、信頼関係を構築した	A			
		舎監相互の連絡体制を構築し、寮教育の一貫性を保つ	A			
		各寮の運営においてそれぞれの設置趣旨を徹底し、入寮生の満足度を高める	A			
5 教務部	生徒の志望大学合格8割以上を目指したカリキュラム、授業や家庭学習のあり方を研究すると共に、グローバル社会で信頼され、活躍できる人材を育成する	チェックテスト、定期考査を定期的実施し、その結果をもとに特別授業を行うことで未習得の生徒を出さないように努力する	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT関連で教員一人一人の授業力向上のため、教科内のICT授業検討会やミーティングを促す。 教員が生徒の成績や生活状況を可能な限り共有できるような体制を構築する。 特殊な状況(コロナ禍)にも応じた学校の計画を立て、円滑な学校運営に努める。 年間計画や校務分掌などを早いうちに決め職員へ連絡する。 	
		定期的に模擬試験を行い、その結果を教員、生徒、保護者に伝達するだけではなく、その結果をもとに現状の学力分析を行い、次回までの課題やその方策を検討する	B			
		生徒の現状に関するさまざまな情報を、学年会やコース会を通して教員間で共有すると共に、毎学期の教育相談を充実させる。また、問題のある生徒に対して全員一丸となって取り組み、生徒にとって最もよい解決を目指す	A			
		国際社会で信頼される、文武両道の教養人を育成するために、「教養」「倫理感」「文化力」「コミュニケーション力」を高めるために、全職員一丸となって取り組む	B			
		事前に計画をたてて、円滑な学校運営に努める	B			
6 中1学年	まずは、中学校生活に慣れ、将来の大学受験に向けた、基本的学力を習得し、応用をつける指導をする。また、様々な学校行事や部活動を通して、学校の楽しさ、学ぶ意欲を感じる指導を行う。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、共同学習も採り入れた全員を伸ばす授業の徹底を図る	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ベネッセ模試 S以上50人 A以上160人 全員がB以上。 習得目標達成率 習得率8割以上が全生徒の8割以上。 英検 全員4級以上。 沖繩空手 全員3級以上。 ボランティア、異文化体験に参加を促す。 学習習慣及び自主学習できる力を身につけさせる。 	
		ベネッセ模試および習得目標達成率の目標達成を図る	B			
		全員が英検の目標級を取得できるよう指導する	B			
		全員が沖繩空手の目標級を達成できるよう指導する	A			
		全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	A			
月1回の学年会を開催し、効果ある授業、学校行事の精選、学級活動・部活動の活性化に取り組み、楽しい学校作りを目指す	A					
7 中2学年	学校が掲げる目標項目に、学校生活の中で自然に取り組み、将来の大学受験に向けた、基本的学力を習得し、応用をつける指導を行う。また、諸行事を通して連帯感を育む。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、共同学習も採り入れた全員を伸ばす授業の徹底を図る	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ベネッセ模試 S以上50人 A以上160人 全員がB以上 習得目標達成率 習得率8割以上が全生徒の8割以上 英検 全員3級以上 沖繩空手 全員3級以上 ボランティア、異文化体験に参加を促す 学校全体で異文化・ボランティア活動の割り振りの仕組みづくりが必要 自主学習できる力を身につけさせる 	
		ベネッセ模試および習得目標達成率の目標達成を図る	A			
		全員が英検の目標級を取得できるよう指導する	A			
		全員が沖繩空手の目標級を達成できるよう指導する	A			
		全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B			
月1回の学年会を開催し、効果ある授業、学校行事の精選、学級活動・部活動の活性化に取り組み、楽しい学校作りを目指す	A					

	部署	具体的目標	具体的方策	個別	総合	次年度への主な課題と目標
8	中3学年	学校が掲げる目標項目に、学校生活の中で自然に取り組み、将来の大学受験に向けた、基本的学力を習得し、応用力をつける指導を行う。また、諸行事を通して連帯感を育む。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、共同学習も採り入れた全員を伸ばす授業の徹底を図る	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ベネッセ模試 S以上50人 A以上160人 全員がB以上 習得目標達成率 習得率8割以上が全生徒の8割以上 英検 全員準2級以上 沖縄空手 全員2級以上 ボランティア、異文化体験に参加を促す 学校全体で異文化・ボランティア活動の割り振りの仕組みづくりが必要 自主学習できる力を身につけさせる
			ベネッセ模試および習得目標達成率の目標達成を図る	B		
			全員が英検の目標級を取得できるよう指導する	A		
			全員が沖縄空手の目標級を達成できるよう指導する	A		
			全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B		
中学・高校間の教師の交流を促進し、中中間の教科・科目の連携を強化して大学進学に直結できる、わかる授業を指導・研究する	B					
9	高1学年	内部進学生は、高校への接続をスムーズに行い、かつ発展的に高校課程を学習できるように、中学と高校が連携して指導を行う。外部進学生については高2までに内部進学生と同じ進路になるよう、学習指導に取り組む。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、全員を伸ばす授業の徹底を図ります。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 高2進級スタート時(4月)から受験に対する意識を高め、2年かけて受験勉強に取り組ませる。 模擬試験の目標 国公立A判定以上20人 B判定30人 C判定40人 英検高2 全員2級以上取得を目標とする。 空手 内生80%初段以上 外生の80%以上が2級以上取得を目標とする。 高2全員がボランティア年2回以上、異文化体験年1回以上 定期テストの取り組みだけでなく、普段の授業を大切にすることを意識させ、日々取り組ませる。 基本的なあいさつ、素直な心、感謝の心を持つ事を意識させる。 TPOに応じた言動や行動をとることを意識させる。 最終的に、なりたい自分になる「自己実現」と社会の人々の役に立つ「社会貢献」のできる人間になるように常に声を掛け、意識させる。
			ベネッセ模試および習得目標達成率の学年目標の達成を図る	B		
			全員が高1で英検準2級以上取得を目標に指導する	B		
			内部進学生は全員が空手1級以上、外部進学生は全が4級以上の取得を目標に指導する。	A		
			全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B		
中学・高校間の教師の交流を促進し、中中間の教科・科目の連携を強化して大学進学に直結できる、わかる授業を指導・研究する	B					
10	理系コース	生徒及び保護者へ細やかに入試情報を提供し、コースが一体となって進路指導・受験対策を行う。また、教務&進路指導部と連絡を密にし、時宜を得た進路説明会や入試対策を行う。	模擬試験や定期考査、チェックテストの結果をもとに、未習得者の完全習得を目指して、補講・個別指導を行う	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 高3 国公立大合格50人(県外20人・県内30人) 推薦受験での合格者増加も目指し、その対策を発展させる 高2 国公立A判定以上15人 B判定35人 C判定45人 英検高2 全員2級以上 空手 内生80%初段以上 外生の80%以上が2級以上 高2全員がボランティア年2回以上、異文化体験年1回以上 生活習慣を徹底し授業での集中力向上を目指す 学校の全内容に全力で取り組む姿勢を育てる 社会人になっても活かせるマナー力を磨く 問題解決能力を身に付けるように指導する
			理系教科の強化を図り、生徒ごとの科目別成績状況、志望校合格の可能性をチェックし細やかな指導を行う。	B		
			進路学習会や三者面談、個別面談などを通して、生徒の進路意識を高め、保護者への情報還元を図る	B		
			模擬試験および習得目標達成率のコース目標の達成を図る	B		
			全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	A		
			全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B		
			大学合格実績のコース目標を達成する	A		
11	文系コース	志望校合格を目指し、生徒の学力向上を全力でサポートする。また、保護者に対して入試情報を提供し、情報を共有する。	模擬試験や定期考査、チェックテストの結果をもとに、未習得者の完全習得を目指して、補講・個別指導を行う	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大合格30人 私立目標大合格率95%以上 国公立大学の総合型選抜・学校推薦型選抜の合格者数を10名まで増やす 空手 内生80%初段以上 外生の80%以上が2級以上 英検全員2級以上、準1級以上10名 高2 国公立A判定以上5人 B判定15人 C判定25人 高2 全員がボランティア年2回以上、異文化体験年1回以上
			文系教科の強化を図り、生徒ごとの科目別成績状況、志望校合格の可能性をチェックし細やかな指導を行う。	A		
			進路学習会や三者面談、個別面談などを通して、生徒の進路意識を高め、保護者への情報還元を図る	A		
			模擬試験および習得目標達成率のコース目標の達成を図る	B		
			全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	B		
			全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B		
大学合格実績のコース目標を達成する	A					
12	東大・難関コース	コース目標大学への合格を目指し、生徒の学力向上を全力でサポートする。また、保護者に対して入試情報を提供し、情報を共有する。	模擬試験や定期考査、チェックテストの結果をもとに、未習得者の完全習得を目指して、補講・個別指導を行う	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新高3生の学力の底上げを図り、旧帝大・医学部受験に耐えうる層の開拓・拡充を進める。 授業研修・勉強会等を継続して行い、教科担当者の指導力UPを果たす。 コース生全員の個人面談を行い、個別フォロー体制に厚みを持たせる。
			難関大学受験を見据え、二次試験型、理社選択科目の強化を図り、生徒ごとの成績状況、志望校合格の可能性をチェックし細やかな指導を行う	A		
			進路学習会や三者面談、個別面談などを通して、生徒の進路意識を高め、保護者への情報還元を図る	A		
			模擬試験および習得目標達成率のコース目標の達成を図る	A		
			全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	B		
			全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	A		
大学合格実績のコース目標を達成する	A					
13	国際文化コース	世界各地で11月に行われるIB試験結果を利用し、国内の国公立大学、私立大学と海外大学への受験をサポートする。ManageBacを使用して保護者が生徒の成績を確認できるようにする	IELTS 対策、英検対策に力を入れ、英語力向上に努める	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 2,3年生全員がIELTSを受験しその成績を海外大学受験や国内大学受験に利用する。 今年度高3年の英検取得は、1級4名、準1級6名、2級7名で全員が2級以上取得したので、来年度はIELTS受験と全員が準1級以上を目指す。 全員がディプロマを取得した(100%)ので来年度も同様の結果を目標にする。 全員が指定校推薦、総合型入試、IB入試を利用して国内外大学への出願に挑戦し、志望大学への合格を目指す。 沖縄空手で内進生が2段、外進生が初段を目指して真摯に空手の練習に取り組む。 CAS活動を通して全員がボランティア活動や異文化交流に挑戦する。
			英語圏大学の情報を収集し、広く生徒・保護者へ情報を提供する。	B		
			IBのスコアを利用して国内外大学へ進学希望する生徒の合格を目指し、補講・個別指導等を行う。	A		
			全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	A		
			全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	A		
			大学合格実績のコース目標を達成する	A		

	部署	具体的目標	具体的方策	個別	総合	次年度への主な課題と目標
14	体育コース	スポーツを通して、人間力と精神力を鍛え、学力を伸ばして、上級学校進学を目指す。各部とも県大会は勿論のこと全国大会上位入賞を目指す。	全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する 野球、柔道、テニス、の各部の指導を適切に行い、県大会、全国大会において上位入賞を果たす 朝自習、読書指導、部活練習が十分に行われるように指導する 早朝清掃等のボランティア活動が十分に行えるように指導する 進路指導部や学年会とも連携を図りながら、進路指導、進路説明会を実施する 大学合格実績のコース目標を達成する	B A A A A B	A	・部活動と学業のバランスのとれた学校生活を通して人間力の育成を図る ・英検取得者数を増やす(高1→80%以上が4級以上) ・沖縄空手高3終了時まで全員が初段以上
15	生徒指導	生徒指導のない学校を目指し、沖尚生らしい校風を構築するために、積極的な生徒指導を行い自立、自覚を持った生徒を育成する	生徒会を中心に学園祭、オープンキャンパス、体育祭、遠足等行事を取り組み学校行事の資質向上を図る 学園の制服に誇りを持ち、礼節を重んじ、授業活動等5分前に行動し、明るくキビキビした行動がとれるようにする 公共のマナー、交通安全マナー向上をはかり、学校周辺の朝清掃などボランティア活動にも積極的に関わる寛容な姿勢を醸成する	A A B	A	・コロナ渦で行事等の中止が相次ぐ中、生徒は数少ない行事に規律を守り、積極的に取り組むことができた。 ・制服の着こなし等で注意、指導される生徒は減少傾向にあるが、公共の場で外部の方から注意されることもあった。学校外でのマナーやモラルについて指導する必要がある。
16	進路指導	本人の志望、能力、経済的状況を勘案し、「行ける大学」ではなく、「行きたい大学」への進路指導ができるように、コースや学年そして学級と連携を密にする。	学年会、コース会と連携し、生徒、保護者への進路相談会を定期的に開催する 全国模擬試験を開催し、その結果のデータを作成し、各科、コースそして学級担任に提供する。 必要に応じて大学入試課や外部講師を招聘し、大学説明会や出前講座等を開催する 各種研究会に参加し、データを収集し、各科、コース、担任に還元する 将来の職業を見据えた進路選択が行えるように、大学の入試・奨学金等の情報を収集し、生徒・保護者へ提供する	B A A A A	A	学年会、コース会と連携し、生徒、保護者への進路相談会を定期的に開催するよう年間行事日程へ組み込む。 全国模擬試験を開催し、その結果のデータを作成し、各科、コースそして学級担任に提供する。 必要に応じて大学入試課や外部講師を招聘し、大学説明会や出前講座等を開催する。 各種研究会に参加し、データを収集し、各科、コース、担任に還元する。 将来の職業を見据えた進路選択が行えるように、大学の入試・奨学金等の情報を収集し、生徒・保護者へ提供する。
17	保健	生徒・教職員の心身の健康を図り、自己の健康管理意識の育成と自発的な健康増進を目指す。	カウンセラー、養護教諭とでカウンセリングをエ夫シクラス担任と共にカウンセリングに当たり、生徒・教員の心身の健康に務めさせる 心身の健康に関する相談を常時受け付け、生徒が充実した学校生活を送れるようにサポートする ・思春期の心身の問題をカウンセラーや担任、養護教諭で連携を取りながら対応し、生徒や保護者の支援に務める ・生徒の健康は基本的な生活習慣のあり方から認識させ自己管理に務めさせる	B B A A	B	・日常を継続するために、改めて生徒への「新しい生活様式」の意識付けに努める。 ・思春期の心身の問題をカウンセラーや担任、養護教諭で連携を取りながら対応し、生徒や保護者の支援に努める。 ・教職員の「心の健康づくり計画」の目標を作成、取り組み実施に努める。
18	図書館	図書館を計画的に整備し、生徒の読書習慣の育成に努め、生徒の読書・学習の展開する場とする。	新刊図書の紹介、各クラスの貸し出し冊子数を月ごとにまとめ報告する 各種イベントの告知、参加への促し IT技術の発展により、他学校図書館との情報共有、問題解決	A B B	B	・図書貸出冊数、人数を増やすよう努める。 ・利用者が一定の知識を持って、図書資料の情報検索ができるよう努める。 ・利用者の求める資料を手に取りやすくするための館内設備について考え、実施できるように取り組む。